

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	株式会社チャイルド・ピース
施設名	小鳩スマート保育所上池台
施設所在地	東京都大田区上池台5-19-14ヒル サイド上池台1階

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園は、子どもが日々の遊びの中でいろいろな素材や玩具等を用いて見立てあそびをする楽しむ姿から令和7年度園内研究主題を「自分を表現する子ども ～見立てたりつもりになったりして楽しむ遊びへの保育者の援助と環境構成」とし、研究を進めている。子どもが水に触れて感触を楽しんだり、水の音や動きに興味を示す様子も多く見られる。水を使った遊びの中で子どもの探求心を大切に、いろいろな気付きを支えて行けるよう、本テーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

6～8月(3回)

- ・水や玩具を配置し、子どもが好きな遊びを選んで取り組む。
- ・子どもの姿を写真・動画・発言メモ等で記録する。
- ・子どもの姿を記録し、カンファレンスで環境や関わりについて振り返る。

9～11月(3回)

- ・保育者や他児と関わりながら、水に触れたり見立てたりして遊びを広げる。
- ・子どもの姿を写真・動画・発言メモ等で記録する。
- ・子どもの姿を記録し、カンファレンスで環境や関わりについて振り返る。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

子どもの興味や遊びの広がりに合わせて、ウォーターテーブルやウォーターガン、水でくっつくブロック、砂場、循環式水道玩具、おままごとセットなどをローテーションで配置し、水に触れる・流す・ためる・見立てるなど多様な遊びが生まれるよう環境を整えた。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

###### 【②問いを考える】

「水ってなんだろう」「どうなるかな」などと問いかけ、水に触れる中で生まれる気づきや言葉を受け止めながら、子どもの興味や関心が広がるように関わった。

###### 【③環境をデザインする】

ウォーターテーブルやウォーターガン、水でくっつくブロック、砂場、循環式水道玩具、おままごとセットなどを用意し、子どもが自分で選んで遊べるようにした。遊びの様子に応じて配置や素材を入れ替えながら、水の動きや変化を繰り返し試せる環境を整えた。

###### 【④探究活動を実践し、記録する】

水に触れながら、流れる・たまる・混ざるなどの変化を試したり、水を何かに見立てて遊びを広げたりできるようにした。保育者は子どもの気づきに寄り添いながら、「どうなったかな」「さっきと違うね」などと声をかけ、一緒に確かめる関わりを行った。活動の様子は写真や動画で記録し、子どもの言葉や気づきをメモに残した。

###### 【⑤振り返る・共有する】

カンファレンスで子どもの姿を写真や動画で共有し、保育者の援助や環境構成について話し合い、振り返りを行う。話し合った内容を、日々の保育で実践する。記録したものをドキュメンテーションなどで保護者と共有する。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

ウォーターテーブルでは、小さな穴から出てくる水の動きをじっと見つめる姿が見られた。水を「シャワーだよ」と言いながら楽しんだり、水の流れを暖簾に見立てて「いらっしやいませ。ラーメンいかがですか」とお店屋さんごっこへと発展したりする姿もあった。

砂場に埋めた野菜を「野菜取れたよ」と収穫し、循環式の水道玩具で洗って「お野菜どうぞ」と保育者とやり取りを楽しむ姿も見られた。

また、水でくっつくブロックが壁に付くことに気づき、水を付けて試しながら「くっついた!」と驚く姿があった。さらにブロック同士をつなげて家や階段を作り、「できたよ」と保育者に伝えるなど、遊びが広がっていった。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

子ども同士で模倣したり、「見て見て」と共有したりする姿が見られ、遊びが少しずつ広がっていく様子があった。保育者が遊びに気づきやすい環境を整えることで、子どもが水の変化や性質に目を向け、想像を広げながら楽しむ姿を改めて感じた。

また、水でくっつくところとくっつかないところ、沈むおもちゃと浮くおもちゃなどの違いに気づき、指さしで知らせながら繰り返し試す姿も見られた。子どもが自ら不思議に気づき、確かめようとする姿の大切さを実感した。